

2 0 0 4 年 1 2 月 9 日

株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5841 FAX.03-3661-7696

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

## コンピューター周辺機器市場調査を実施

2 0 0 7 年市場予測は 2 兆 6 , 1 9 5 億円と堅調に推移

総合マーケティングビジネスの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表 良吉 03-3664-5811)は、ブロードバンドに対応した新たな製品、サービス需要が高まっているコンピューター周辺機器市場についての調査を行った。その結果を報告書「2005 情報機器マーケティング調査総覧(下巻)」にまとめた。

## &lt; 調査結果の概要 &gt;

## コンピューター周辺機器合計市場

【対象：表示装置(7品目) 入出力機器(17品目) 外部記憶装置(10品目) 外部記憶媒体(7品目)】

2003年 2兆5,865億円 2007年予測 2兆6,195億円(対03年比 101%)

コンピューター周辺機器市場は、入出力機器が全体の55%を占め、市場を牽引している。入出力機器市場では、コンシューマー分野はインクジェット方式プリンタやデジタルスチルカメラ、ビジネス分野でデジタル複合機や、ファクシミリなどのOA機器が市場を下支えしている。しかし、入出力機器は既にリプレース需要主体となっており、市場は成熟化に向かいつつある。一方、回復基調で推移するPC市場と共にCOMBODライブや追記・書換え可能DVDドライブ、ハードディスクドライブなどの外部記憶装置市場が拡大している。特にハードディスクドライブは大容量化・小型化が進み、従来のPC需要のみならずデジタル家電分野への応用も進んでいる。

## 1. 表示装置市場

2003年 1,510億円 2007年予測 1,845億円(対03年比 122%)

LCDディスプレイは低価格化、高解像度化、大型化などによりCRTディスプレイからの需要シフトが進み、引き続き拡大基調で推移している。プラズマディスプレイは、パネルの量産化により低価格化が進行した結果、業務用途向け製品においても公共施設、商用施設でインフォメーションボード用途としての需要が喚起されている。

## 2. 入出力機器市場

2003年 1兆4,240億円 2007年予測 1兆2,443億円(対03年比 87%)

プリンタは長くコンシューマー市場を牽引してきたインクジェット方式が飽和状態となっており、リプレース需要が中心となっている。製品の流れはスキャナ、ファクシミリ、コピー機能を搭載したインクジェット複合機へと向かいつつあり、2007年にはシングルファンクションプリンタを上回ることが予測される。インクジェット方式プリンタはPCの需要動向に大きく影響されるため、今後、デジタルホームネットワークにおける出力機器として如何にデジタル家電との連携を図っていくかが市場拡大のポイントとなる。ビジネス分野では電子写真方式のモノクロからカラーへのリプレース需要が活発化している。今後、トナーなどのサプライ製品を含めたコストが低下すれば中小事業所への普及も進行するであろう。

## 3. 外部記憶装置市場

2003年 8,137億円 2007年予測 9,650億円(対03年比 119%)

膨大なデータを保有するビジネスユースにおいては、災害・人為的ミスなどによるデータ破壊対策としてデータバックアップが重要度を増し、ディスクアレイ装置などの市場が拡大している。一方、コンシューマユースでもHDDや追記・書換え可能DVDドライブがPCからデジタル家電へと応用範囲を広げつつある。特にハードディスクドライブはデジタル家電向け需要が市場を大きく底上げしており、将来的には携帯電話への搭載も見込まれる。

#### 4．外部記憶媒体市場

2003年 1,978億円 2007年予測 2,256億円(対03年比 114%)

メモリーカードやUSB対応メモリは大容量化、小型化へと向かいつつあり、簡易ストレージとしての需要増が見込まれる。外部記憶媒体市場は、外部記憶装置市場に牽引される形で市場を拡大させており、光系メディアはコンシューマユースを中心とした市場を形成している。特に追記・書換え可能DVDは旺盛なDVDレコーダ需要を背景に録画ニーズを取り込むことにより従来のビデオテープからの代替需要も喚起している。

<注目品目>

##### 1．プラズマディスプレイ

2003年 130億円 2007年予測 330億円(対03年比 254%)

業務用のプラズマディスプレイは薄型でかつ大画面、高精細といった特徴から、公共施設、商業施設、駅構内、民間企業施設内などでのメッセージボードや、広告宣伝用途、教育機関などにおけるプレゼンテーション用途など、様々なシーンで利用されている。

2002年～2003年にかけては景気低迷による設備投資抑制の影響を受け成長率はやや鈍化したものの、2003年後半より民間企業施設のインフォメーションボード用途を中心に需要が回復しており、当該市場は一時の停滞を脱し再び活況となっている。

製品の低価格化の進行により購入に対する敷居が低くなった。さらに、新規の市場やアプリケーションを開拓する余地は大きい。しかし、液晶ディスプレイで40インチクラスの製品が投入されたことから、今後はプラズマディスプレイの42インチサイズの製品との競合が激化すると予測される。コスト、利用シーンによってプラズマディスプレイと液晶ディスプレイの取舍選択がユーザーにおいて行われるであろう。

##### 2．デジタル複合機

2003年 3,000億円 2007年予測 3,200億円(対03年比 107%)

オフィス環境におけるデジタル化、ネットワーク化の進展を背景に、コピー、プリンタ、FAX、スキャナなどの複合機能を有する当該製品は、主として紙の情報と電子情報を相互交換できるネットワーク対応のドキュメント管理ツールとして使用されている。システム化の一環として他のOA機器や各種情報機器との連携が図られてきている。各種アプリケーションを搭載することでドキュメントサーバ的な提案も行われているなど、システム化、ネットワーク化の進むオフィスドキュメントにおいて、当該製品の重要性は更に増してきている。また、ドキュメント機器としてだけでなく、情報漏洩事件を背景として暗号機能やICカードによる個人認証機能などドキュメントセキュリティ機能の強化も図られてきている。システム拡張性やセキュリティ機能など新たな利用方法により、新規需要やリプレース需要の両面からのアプローチが促進されている。

##### 3．追記・書換え可能DVDドライブ

2003年 630億円 2007年予測 1,010億円(対03年比 160%)

2002年から2003年にかけてコンシューマパソコンのハイエンドモデルからミドルレンジモデルまで標準搭載が進んだことで、2003年の国内市場は数量ベースで360%の伸長を示した。タイプ別ではスリムタイプの構成比率が高まっており、これはノートPC、省スペースPCへの標準搭載が進行した結果といえる。今後もノートPC、省スペースPCの需要拡大に伴い、スリムタイプを中心に伸長が見込まれ、COMBOドライブに代わり光ドライブ市場を牽引することとなるであろう。

##### 4．追記・書換え可能DVD

2003年 241億円 2007年予測 289億円(対03年比 120%)

2003年の国内市場において、追記型DVD市場がコンピューター用ドライブ、DVDレコーダの需要増により数量ベースで大幅な拡大をみせた。タイプ別で見ると、追記型DVDではデータ用が2003年数量ベースでおよそ55%、録画用がおよそ45%とデータ用が若干高い構成比率を占めている。2004年はDVDレコーダ需要が拡大したことにより、録画用の構成比率が高まっていくと見られる。

書換え型DVDは録画用が2003年数量ベースで約75%と高い構成比率を占めており、2004年以降も同様の傾向で推移するものとみられる。但し、DVDレコーダに内蔵するHDDの大容量化が進行しており、HDD

による録画ニーズが高まっていることから、当該メディアはあくまでも保存用メディアとして拡大していくことが予測される。今後低価格化が進む追記型を中心とした市場を形成していくであろう。

## 5. USB対応メモリ

2003年 102億円 2007年予測 120億円（対03年比 118%）

USB対応メモリは、ドライブスの大容量記憶メディアとしての独自性を確立しつつあり、当面拡大基調推移を示すものと考えられる。更なる大容量化・高速化により、マルチメディアデータへの対応も進むものと考えられ、その需要分野はビジネス、コンシューマー共に裾野を広げる方向にある。モバイルユースを中心にセキュリティツールとしての利用も拡大しており、当該製品自体をUSBトークンとして用いる、またはウイルス対策ツールをバンドルさせるなどの動きが市場を活性化している。販売店の周辺機器コーナーに訴求ができる点、パソコン販売店だけでなく書店、コンビニなどによる広大な販売網も活用できることがメリットとして挙げられる。

### 調査対象

調査対象	対象品目
表示装置	CRT ディスプレイ、LCD ディスプレイ、プラズマディスプレイ、LED ディスプレイ、プロジェクタ、電子情報ボード、資料提示装置
入出力機器	PPC、ファクシミリ、デジタル複合機、イメージスキャナ、フィルムスキャナ、デジタルビデオカメラ、デジタルスチルカメラ、マウス、タブレット/ディジタイザ、キーボード、PC カメラ、プリンタ（ドットマトリックス方式、電子写真方式、インクジェット方式）バーコードプリンタ、ワイドフォーマットプリンタ、オンデマンド・プリンティング・システム、スピーカー、PC用ヘッドセット
外部記憶装置	磁気テープ装置、ディスクアレイ装置、ハードディスクドライブ、フロッピーディスクドライブ、光磁気ディスクドライブ、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、追記・書換え可能DVD ドライブ、メモ리카ードリーダー/ライター
外部記憶媒体	磁気テープ、フロッピーディスク、光磁気ディスク、CD-R/RW、追記・書換え可能DVD、メモ리카ード（コンパクトフラッシュ、SD カード・MMC、スマートメディア、メモリースティック、xDピクチャーカード）、USB対応メモリ

**調査期間** 2004年10月上旬～11月下旬

**調査方法** 富士キメラ総研専門調査員による調査対象企業に対してのヒアリング取材、および富士キメラ総研社内データの活用により、調査・分析を行った。

資料タイトル：「2005 情報機器マーケティング調査総覧（下巻）」

体 裁 ： A4判 351 頁

価 格 ： 97,000円（税込み101,850円）

調査・編集 ： 富士キメラ総研 第二研究開発部門

TEL:03-3664-5841 FAX:03-3661-7696

発 行 所 ： 株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811（代）FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>